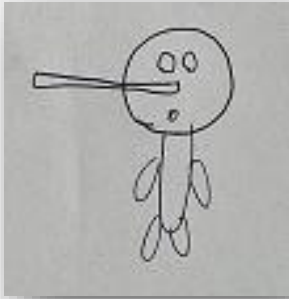


週刊 NEWSLETTER

新年度が始まり、キャンパスに活気が出てきました。昨年好評だった「新入生アンケート」。今年も聞いてみました。題して「Youは何しにクマホ大へ？」。



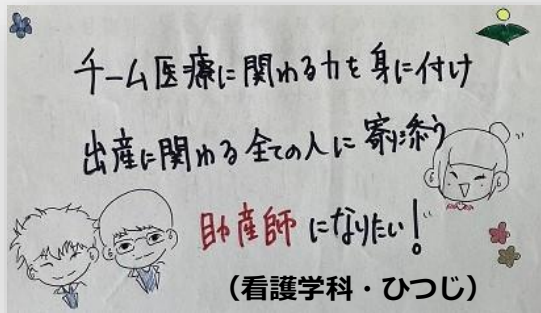
(PT専攻・な)

子どもの発達にかかわる作業療法士になりたいから。その施設が整っているこの大学に入学した。またスポーツヘルスサイエンス事業で陸上競技に関わることができるから (OT専攻・ぴけっと)

新入生に
聞きました

Youは何しにクマホ大へ？

友達を作る。勉強を頑張る。
学食のメニュー全制覇！！
(PT専攻・花より団子)



(看護学科・ひつじ)

一人暮らしをして自立したい、自分が興味のある分野の勉強をしたい
(PT専攻・M)

自信を持った人になるため (医学検査学科・おにぎり)

作業療法士になりたいから。身体障がい、知的・発達障がいを
持っている子のサポートがしたい、知識が欲しいと思ったから。
(OT専攻・M)

キラキラ看護師になるため
(看護学科・りちゃん)

魔法使いのような言語聴覚士になるため！！ (ST専攻・ハピネスチャージ♡プリキュア)

苦手なことに挑戦したい、一生懸命どんなことにも取り組みたい！ (ST専攻・あいうえお)

積極的に発言できる力をつけたくて来ました。チーム医療で活躍できる人材になれるように頑張ります！ (OT専攻)

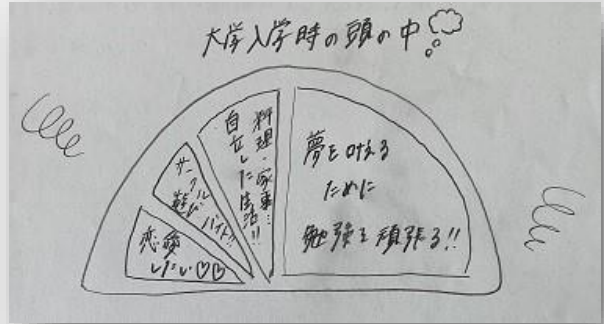
人々のがんなどの病気を早期発見できるように取り組みたかったから (医学検査学科・るか)

新入生に
聞きました

Youは何しにクマホ大へ?

スポーツ専門理学療法士に
なってオリンピックに行く
(PT専攻・佐賀出身)

オープンキャンパスに参加した際、先輩方が皆さんキラキラしていて、自分もこの大学で学びたいと思った。素敵な言語聴覚士になるために、勉強だけでなくアルバイトやサークルを通して、様々なことに挑戦したい。(ST専攻・あき)



(看護学科・ちやこ)

医学検査学科 you

◆熊本保健科学大学は、社会人基礎力も身に付けることができるから。勉強だけでなく、サークル活動も頑張りたい(たまごボーロ)

◆縁の下の人助けになれるような臨床検査技師になりたいと思い、入学しました。(ヌケニン)

◆友達や先輩と仲良くなりたい。これにつける。((-_-)b)

◆資格を取るのはもちろん人の命を救うことができるような人になりたいと思ったから。(MT)

◆助産別科があり、助産師を目指したいので熊本大を選びました。大学でやりたいことは友達を作ることと、吹奏楽サークルに入って自分の趣味を深めていくことです。あとは、一人暮らしを始めたので、ホームシックを克服して自立していきたいです。(おさかな)

◆自分の目指す災害看護師になるために来た。熊本は災害が多い地域だと思うので、どうすれば人を助けられるのか、今災害が起きたらどういう行動をすればいいのかななどを考えながら学んでいきたい(シュガ)

◆自分が努力しても受かるかわからないぐらいのレベルの大学で、今までは逃げてきたけど頑張って入学したので楽しさと誇らしい気持ちでいっぱいです。大学ではたくさんの人とコミュニケーションをとり自分の成長のために時間を使っていきたいです。たくさんの方の考え方、価値観を知っていききたい(だいちゃん)

◆韓国など国際交流ができるから。助産師を目指していて、助産師の資格を取得することができるから(M)

◆高校時代にしていたラグビーでたくさんケガをしたのですが、そのときの確なりハビリを施して下さった理学療法士の方にあこがれたから(焼きいものシヨパン)

◆強くなりたい(さん)

OT 専攻 you

◆臨機応変に対応できるOTになりたいと思ったので選びました。(りんご)

◆小児リハについて詳しく学べるから。年齢・性別問わずたくさんの人と関わりたい(=^_^=)

◆自分は話すのは苦手だけど人と話すことは好きなので、コミュニケーション能力をつけるためにこの大学でレクリエーション技法やアカデミックスキルなどの学習を通して力をつけたいと思ったから。(あ)

ST専攻 you

◆国家試験の合格率が高かったことと学校の雰囲気良かったから。サークルに入ったり、友達との時間を楽しみたい(まっちゃん)

熊本大は設備が整っていて、国家試験の合格率も高いことに魅力を感じ入学したいと思いました。
臨床検査技師として医療現場で活躍できるように、知識と技術を身につけたいです。実習がとてもしっかりです。
ボランティア活動にも参加して、大学生のうちにたくさんの方と経験をしたいです。



(くま太郎)

◆中学の時に本学のホームページを見て臨床検査技師という職業を知った。臨床検査技師という将来の夢のきっかけを与えてくれたこの大学で夢を実現させたいと思ったので選んだ。(さや)

看護学科 you

◆杏祭、サークル、バイト、イベント。おばあちゃんを看護している看護師に憧れたから(マヨネーズキューピー)

PT専攻 you

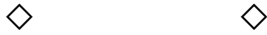
◆友達たくさん作って笑って何事にも全力で尽くし人生の1ページとなるような4年間を過ごしたい(きなこもち)

感染対策を徹底 合格へ新たな試みも

上妻 行則 国家試験対策委員長



2023年国家試験の合格発表が3月下旬にあり、本学学生は理学療法士と保健師、助産別科が合格率100%を達成するなど、各試験で全国平均を大きく上回る結果となりました。国家試験対策委員長の上妻行則准教授（医学検査学科）に昨年度の試験を総括してもらいました。



本学のミッションは、保健医療分野の教育と研究を通して社会に貢献できる医療技術者を養成することであり、そのためには国家試験の合格が不可欠です。先の国家試験を受験した学生の皆さんは、コロナ禍のために一部遠隔で講義を受講せざるを得ない科目などもあり、国家試験に対する不安も大きかったものと推察されます。そのような状況にもかかわらず、「全員合格」を目指して各学科・専攻の先生方が必要な感染対策を講じた結果、4年次には対面による補講や成績が伸び悩んでいる学生に対する個別面談の実施など予定していた国家試験対策の多くを無事に行うことが出来ました。また、医学検査学

科では毎年恒例である暗記大会に加え、楽しみながら勉強に励んでほしいと考え、「語呂合わせの匠」選手権を実施するなど新たな試みも行われました。

さて、先の国家試験の結果に関しては、3年次後期から国試対策を開始するとともに、毎週の小テストの実施など理学療法学専攻の国家試験対策については特筆すべき事柄であり、その結果として理学療法士は合格率100%を達成することができたと思います。また保健師、助産師も合格率100%を維持するとともに、臨床検査技師、看護師、作業療法士、言語聴覚士は全員合格とはなりませんでしたが、全国平均を上回る合格率を達成することが出来ました。これもひとえに、各学科・専攻の先生方、国家試験対策委員の皆様のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。

今年度は、全ての講義がコロナ禍前の状況に戻り、国家試験対策も行いやすくなります。2023年度こそは「学生皆さんの国家試験合格」を目指して取り組んでいく所存ですので、教職員の皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

太田原豊一博士の孫・和舞氏

本学来訪 業績集など寄託

化学及血清療法研究所（化血研）の創業者、太田原豊一博士の孫にあたる太田原和舞（かずむ）氏夫妻が17日（月）に来学され、太田原博士の業績集及び電子ファイルを寄託されました。

熊本保健科学大学は、昭和34（1959）年に化血研の公益事業として創立された「化血研衛生検査技師養成所」を前身としています。初代学長は、現在の竹屋元裕学長の祖父、竹屋男綱博士です。豊一先生と男綱先生は、熊本大学医学部の前身、熊本医学専門学校と同級生です。和舞さんからは、豊一先生も本学のような大学を作るのが夢だったと聞かされていたそうです。その夢を同級生の男綱先生が叶えられました。現在1万人を超す卒業生が社会で活躍し、豊一先生の夢が叶えられていることを仏前に報告されたそうです。

なお、太田原豊一先生は、昭和4年に鼠咬症研究で日本学士院賞を受賞され、戦後間もない昭和20年12月26日に化血研を創設、昭和22年に熊本医科大学学長を務められた後、昭和23年6月18日に逝去されました。それから75年、これ

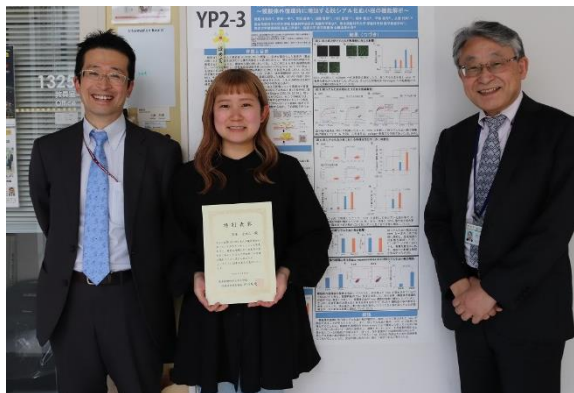


太田原豊一博士の業績集などを本学に寄託した孫の和舞氏（中央）

からも先生が播かれた種は大樹となり、沢山の実を結んでいきます。現化血研は、太田原豊一賞を創設し、毎年2名の方を顕彰しています。（理事長・木下統晴）

化血研創業者が抱いた大学開設の夢

表彰状を手にする荒尾さん（中央）



日本人工臓器学会大会ポスター「優秀賞」

荒尾さん（大学院2年）特別表彰

大学院臨床検査領域2年荒尾ほほみさんが18日（火）、本学の特別表彰を受けました。荒尾さんは昨年11月に開催された第60回日本人工臓器学会大会の萌芽研究ポスターセッションで「体外式膜型人工肺（ECMO）内に生ずる血栓の原因を探る～模擬体外循環時に増加する脱シアル化血小板の機能解析～」と題した発表を行い、「優秀賞」を受賞しました。

大学院生が特別表彰を受けるのは初めてです。1304M講義室で川口辰哉研究科長から表彰状を受け取った荒尾さんは「特別表彰の第1号として選んでいただき、大変嬉しいです。一日一日を大事にし、社会に役立つ研究成果を出せるよう、努力してまいります」と喜びを語っていました。（入試・広報課）

満額獲得ゲノム解析機器など購入

新型コロナウイルス感染流行に伴い国から都道府県に交付される「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金」を使い、本学では令和3年度に新型コロナウイルスのゲノム解析用機器として次世代シーケンサー（NGS）と関連装置・ソフト、令和4年度にはPCR検査の負担軽減と流行時の検査数増加の対応を目的に全自動PCR装置を購入しています。

コロナ関連支援交付金

NGSはillumina社の MiSeq、全自動PCR装置はRoche社の cobas5800です。熊本県を通じての申請が全額認められ、一連の機器購入が実現しました。どちらの機器も新型コロナウイルスに関連する検査以外での使用も可能です。特にNGSは解析ソフトを2つ（QIAGEN社のCLC Genomics Workbench、トミーデジタルバイオロジー社のGeneious）導入していますので、他の研究機関・検査機関で得られたシーケンスデータを追加解析することも可能です。使用を検討される方はご相談ください。

（医学検査学科・山本隆敏）



次世代シーケンサー（NGS）を操作する山本講師

周囲の声援を受け懸命に綱を引く学生たち



看護学科1年生（127人）による恒例の「綱引き」が14日（金）、アリーナで4年ぶりに行われ、8チームが熱戦を繰り広げました。

綱引きは、「看護セミナー」の授業の中で、チームワーク演習の一環として行われてきました。各チーム、「デコポン」や「トマト」など、熊本県の名産品にちなんでネーミング。学生たちはチーム内で綿密に作戦（綱を引くタイミング、配置の工夫など）を練り、チーム一丸となって本番に臨みました。まだ、マ

4年ぶりに復活 看護学科綱引き

スク姿での戦いでしたが、学生たちは、自チーム以外にも大きな声で応援し、大いに盛り上げていました。

参加学生たちは「新生でお互いのことを知らない者同士であったが、綱引きで勝つというゴールを共有することで距離が縮まり、仲良くなった」「チームワークの大切さを学んだ」「127人の力で将来に向かっていく準備ができた」などと感想を口にしていました。（看護学科・吉野拓未）

◆4年ぶり対面で4年生保護者会 4年生の保護者会（全学科・専攻対象）を15日（土）、対面形式で開催しました。コロナ禍では、Webオンデマンド形式による開催が続きましたが、実に4年ぶりに保護者の皆さんに足を運んでもらいました。50周年記念館であった全体保護者会の後、各学科・専攻に分かれての分科会、個別面談を実施しました。当日は162人の保護者の方が参加。分科会では活発な質疑応答も交わされました。保護者からは「入学式を含め一度も大学内に立ち入ることができないまま、もう卒業までこのままなのかと寂しい思いでしたが、この機会をたいへんありがたく思います」という声も聞かれました。
（就職・実習支援課）



久々に対面での開催となった
4年生の保護者会

※次号（193号）は5月12日に配信します。